

5/21

Tongali プロジェクト：ライブ配信開始

■ 学術研究・産学官連携推進本部



配信中の出演者と司会 (Tongali プロジェクト事務局)

起業家育成教育プログラムである Tongali プロジェクトは、ライブ配信番組「Tongali イノベーターズチャンネル (略称:Tチャンネル)」を始めました。第1回は、現役大学生起業家2名(GeCSの村上嘉一CEOとFroomの水元陸大CEO)が出演し、起業のきっかけや、親や友人の反応、新型コロナウイルスの影響等といった視聴者からの率直な質問に答えました。視聴者からの感想は、「同年代の方が活躍しているのを見て、自

分も頑張ろうと思いました (学生)」、「学生で起業している方の生の声が聞けてよかった (学生)」、「臨場感があり、大変良い (社会人)」などででした。

Tチャンネルは、起業やイノベーションに興味を持つ学生を主な対象として、スタートアップ企業の動向や重要トピックス、キーパーソンのオピニオンなど、幅広いジャンルを扱います。6月からは、第2、4木曜日の開催を予定しています。

6/2

「第1回高等研究院ウェビナー (高等研究院 X 未来社会創造機構)」を開催

■ 高等研究院/未来社会創造機構



ウェビナーでの発表の様子

名古屋大学初のウェビナー (オンラインセミナー) として、「第1回高等研究院ウェビナー：未来を見据えるコロナ禍の研究者たち」を開催しました。同セミナーでは、新型コロナウイルスによる世界的かつ急激な変容が起きている中、学術研究の最前線に立つ研究者たちが、どのように研究や調査を進め、この災厄にどのように立ち向かい、あるいはどのように共存するのか、そして、学術と社会の未来をどう

描いているのかをテーマとしました。

発表は、基礎研究及び応用研究を担う高等研究院と未来社会創造機構の6名の新進気鋭の研究者たちが担い、各自が専門の研究分野から、コロナ禍を経験した我々の未来像について講演しました。

ウェビナーには、全国の大学、研究教育機関、企業から450名を超える申し込みがあり、盛況のうちに閉会しました。

ブレイクタイム

東海国立大学機構大学文書資料室になりました

大学文書資料室は、一言で言えば、大学の公文書館兼歴史資料館です。公文書館としては、公文書管理法に基づき、大学の組織から重要な公文書の移管を受け、歴史資料として保存するとともに、国民の利用に供しています。これは、内閣総理大臣の指定を受けた施設のみが行えることで、全国で12の国立大学法人がこの指定施設を置いています。

歴史資料館としては、大学の卒業生、OB・OG、関係団体などから大学の歴史に関する資料を収集するとともに、それらを用いて大学の歴史を研究し、刊行物や展示会、講義、研修等を通じて、その成果を学内外に広く普及する役割を担っています。

これまでは名大の組織でしたが、この4月から東海国立大学機構本部直属の運営支援組織になりました。公文書館としては、名古屋大学だけではなく岐阜大学の法人文書も受け入れます。歴史資料館としては、当面は引き続き名古屋大学を対象として業務を行うことになっています。



東海国立大学機構大学文書資料室が入っている本部別館 (3月までと同じです)